

幸
才
又
通
信



幸

才

又

通

信

幸



私たちは
あなたに光を觀ようとし、真実を体験し、
それを現そうとします

今回の表紙について：お正月にはお正月飾りに展開するリースです



今年の仕上げに…コツコツ知識を学びはじめます (ヤエン) ~ ♪ ♪ : YaYeN

第20回 「光を具現化する」

ユソセンヤン ありがとうございます。

真の願望は、外から与えられた何かによって叶うのではありません。

真の願望は、自らを創造の源として、光を具現化する、ということです。

なぜなら、それは初めからある達成であり、それに自身の内側で目覚め、現し、受け取るものだからです。

達成に目覚め、それを知ることを「直観」と言います。

それは、絶対的な肯定であり、知識に開かれています。

自身の内側に一切の否定性がなく、完全に肯定的であり、そして純粹です。

その目覚めを私たちは自身の純粹な意図（純粹な印象）によって現します。

それは、客観的であり、そして具体的です。

抽象的、感覚的ではなく、他者の進化のために、順を追った展開で、光を具象化していきます。

そして具象化された達成を緻密に五感で体験します。

五つの感覚を細やかに使い、その形を受け取る時、私たちは達成を具現化します。

このように、私たちが創造の源として、光を具現化するとは、

- 1) 肯定的であること…知識に開かれている
- 2) 具体的であること…他者の進化のためである
- 3) 緻密であること…詳細に五感で体験する

ということです。

ユソセンヤン ありがとうございます



第20回 今治市について

ユソセナシマ

ありがとうございます

今回は、今治市についてお伝えいたします。

今治市内の人口は、今年3月末時点で150,687人。前号でお伝えいたしました大三島も、今治市の中にあるため、大三島の人口4,914人もこちらに含まれます。

今治は愛媛県では、松山市に次ぐ2番目に人口の多い都市です。

移住にご興味のある方は、お読みになられた方も多いかと思いますが、「田舎暮らしの本」2023年版“住みたい田舎ベストランキング”1位に選ばれています。

移住者の数は、2020年に比べ、2022年は3倍以上も増え、人口15万の都市に1,700人も移住されているそうです。

ンヤン先生は前号で、今治のように光が広がっている場所にいると、自ずと自身の響きも広がり、自然と「私たち」へと進み、人々とつながり、ともに成長し、進化していくことが容易になります。今治への移住を実現することは、大きな達成を受け取る最善、最速の道だと思います。と、おっしゃられています。

コトハを学んだことがなくても、自然と響きを感じて、人が集まってきているのではないのでしょうか？

KIRの真の願望は、「すべての人に純粋な知識と進化の道が開かれ、完全な目覚めが具現化された世界の実現」です。今治への移住は進化を望む人にとって最善であることですので、KIRでは、今治への移住を意図している方への支援をおこなってまいります。

不定期ではございますが、移住者ミーティングの開催や、Facebook Messengerにて、“KIR移住者支援スレッド”を作成し、シェアをおこなっております。

このような今治への移住に関する情報をご希望の方は、

コトハ・インテグラルリサーチ ホームページ➡移住者支援

<https://ws.formzu.net/fgen/S378646191/>

以上のコンタクトフォームより、お申し込みくださいませ。

ユソセナシマ

ありがとうございます



植物から自然知性を学ぶ

ロヲマ

第20回 畑の王子様

～自ら愛する決意により、主語が「私」から「私たち」に変わる物語～

ユソセロヲマ ありがとうございます。

昔々、自ら愛することで知られる国があり、そこには畑の王子様と呼ばれる人物がいました。

畑の王子様は、真の愛とは何かを知りたくて、その国にやって来たのです。

彼は非常に恥ずかしがり屋なため、自分から人と交わることは得意ではありませんでした。

挨拶をされれば応えますが、自ら挨拶をしても応じられないと思うと、恥ずかしさを感じました。

愛を理解する一環として、カミ様は王子に農業をするように伝えられました。

彼は野菜に興味を持たず、自分で育てた野菜を食べることに興味がありませんでした。

しかし、みんなが彼の野菜を食べて喜ぶ姿を見ると、喜びを感じることができました。

だからこそ、みんなが幸せになるなら、一生懸命に野菜を育てることができたのです。

しかしある時、畑の王子様は思いました。「私が育てた野菜を喜んで食べてくれるけれど、私自身を愛してくれているのだろうか？」と疑念を抱くようになりました。

畑での作業中、彼は自分のためではなく、みんなのために働いていることを実感していました。

ですが、みんなが自分を真に愛しているかどうかの疑念が彼を苦しめました。

この疑問を抱えて、カミ様に相談したのです。カミ様は王子に対し、重要な教えを与えました。

他者が畑の王子様を愛するかどうかは、その人にとっての問題である。

あなたにとっての問題は自ら愛を広げることです。他者の反応に囚われて悩む必要はない。

自ら愛する決意をすれば、主語は「私」から「私たち」へと拡がるのです。愛は「私たちの幸せ」。

自ら愛することで、主語が「私」から「私たち」に変わるという知識は、画期的な啓示でした。

それは、彼が生まれてこのかた「私」という視点のみで人生を歩んできたからです。

主語が「私たち」に変わり、個人の幸福を超えて共有される幸福を得たとき、共に過ごす時間の価値が計り知れないものであると感じるようになりました。

当然の如く王子は、自ら愛する決意を固めました。

相手がどう感じようと自分から愛を示そうと決意しました。

なぜなら愛は「私たちの幸せ」であり、自ら愛を示すことが重要だと悟ったからです。

個々の幸せよりも「私たちの幸せ」を考え、自ら愛する心を持つことで、

主語が「私」から「私たち」へと進化し、幸福への道が開かれるのです。

畑の王子様は、畑で育てた小松菜を食堂に納めていました。

ある日、食堂で食事をする天使が自宅でも小松菜を食べたいので売ってほしいと頼んできました。

王子はこれを聞いて大変喜びました。

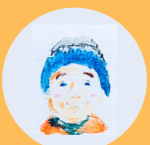
なぜなら、自身が育てた野菜に価値を見出し、高いお金を払ってでも食べたいと思ってくれたからです。

これは、自身が信頼されていると感じる出来事であり、忘れていた自身の尊厳を思い出しました。

畑の王子様は、再び確信しました。

みんなを愛し、みんなの喜びと進化のために、一層純粋な野菜を育てよう。

ユソセロヲマ ありがとうございます。



今年の仕上げに…進化への苦しみを求める

具体的には、「進化の苦しみ、愛がわからないことに苦しむ」

第20回 大三島の除虫菊

ユソセキマレ

ありがとうございます。

大三島は一時期、冬のような寒さがあつたり、秋のような陽気が続いたりして、なかなか気候が定まらない日が続いていますが、着実に冬が来ております。

大三島ではミカンなどの柑橘栽培が盛んになる前は、除虫菊やタバコの葉の栽培が盛んであったそうです。

除虫菊はみなさんもお存知のように、蚊取り線香に使われています。

明治期に和歌山から出発し、広島県の芸予諸島を経由して大三島に伝わったそうです。

大正初期から昭和中期までほとんどの農家が除虫菊栽培を取り入れ、多い農家は5～6反もの面積を作っていました。

この頃よく島で見られていた風景が、除虫菊の花咲くころ、瀬戸内の島々一帯の畑は、遠目には雪かと思まがうほど、白一色に覆われていたそうで、この地方の人々にとっては、朝な夕なに慣れた風景であり、その独特の強い花の香りをついて駆けずり回った山野には、少年の日の思い出があるそうです。

今でこそ、柑橘栽培にとって代わってしまいましたが、昔の島の農家の方がいかに暮らしていくのかが分かるのと、菊の花が一面に広がっている美しさが伝わってきます。

ユソセキマレ

ありがとうございます。



第20回 「創造の源」

ユソセシヲリ

ありがとうございます。

自身が創造の源であるというのは、一般的に言う「何もかも自分一人でやり遂げないといけない」とか、「自分一人の力で何でもできる」とかいうこととは違っていると思います。むしろ逆に、他者がいるからこそわかることです。

この原稿を書いている時点のシヲリはキオマ通信の今回の締め切りをとうにすぎています（キリヲ編集長すみません）。ですが、数時間前まで別のMTGに参加していたり、7次元ポート体験をしていたり、口上儀礼をしていたりしていました。

これは、「キオマ通信の原稿を仕上げる」ということだけを見ていると回り道のように見えます。ですが、シヲリはその経験があるからこそ、この文章を書いています。結果として、あと30分後にはキリヲ編集長に原稿を届けることができるのです。

「キオマ通信の原稿を仕上げる」は、KIRの達成（全体）である「すべての人に純粋な知識と進化の道が開かれ、完全な目覚めが具現化された世界の実現」の対する部分です。シヲリが常に達成を観ようとし、光を現そうとして活動することで、毎瞬間分岐点から闇に進みにくくなり、その結果として部分である「キオマ通信の原稿を仕上げる」も「ルートラーナ暦カレンダーのアイデアを形にする」も「ナトマさんに髪を切ってもらう」も具現化していきます。

初めの文章に戻りますが、だからこそ私たちは部分にとらわれて一人の世界に閉じこもらず、光を生きる仲間と関わり、他者に光を現そうとすることで創造できるのです。

そのことを完全に引き受けることが、自身が創造の源であることに目覚めることです。

ユソセシヲリ

ありがとうございます。



第20回 他者に光を観ようとする (2)

ユソセメセンありがとうございます

他者に光をみようとする意図を持ち、他者を赦し、手放します。

いかなる他者でも、それは自身の創造の現れです。他者に光を観ようとする、とは「光を観ようとする」意図によって、他者を観ることであり、それは他者の光を観ようとするものではありません。

他者に光を観ようとする者は、他者がどのような状態であっても、常に自身が創造の源であり、自身が創造し、それを現わしていることは同じです。どちらも、その人が自身の創造の現れとして在ることを知ることです。

ユソセメセン
ありがとうございます

※「他者に光を観ようとする」シリーズ第1弾はキオマ通信第9号に掲載されています。よろしければ、読み返してみてくださいね。第3弾もお楽しみに！



今年の仕上げに…イチゴ大福食べる

第20回 緊張感のあるご対面

ユソセロラン

ありがとうございます

キオマ食堂で使用する食材は、コトハ農法で作られた畑で採れる野菜たち、無農薬の取り寄せ野菜たちです。

それらの野菜は、野菜の本来の特徴が露わであったり、ありのままの自然さでキオマ食堂にやってきます。

取り寄せ野菜はきれいに洗って梱包して届けられるのですが、農薬を使わないで栽培された新鮮でおいしい野菜は、自然界の虫たちも大好きなようで、彼らにもお目にかかる機会が度々あります。

随分慣れて平気になったとは思いますが

『いるかもしれない』と思っていても、やはり『いる』のを目にすると、思わず声が出てしまいドキドキします。

そのからだが大きければ大きいほど、ドキドキも比例して、毎回刺激的な出会いと別れの繰り返し。

形態もさまざまで、幼虫？状態だけでなく、サナギになってやってくる子もいます。

先日は、ダンゴムシのあかちゃん発見。

またある時は、洗っていると手にカメムシの成虫がとまっていたこともあり…

そんな訳で、野菜を洗うのはとても慎重になります。

動物性たんぱく質が紛れ込まないように。

私たちはじぶんたちが食べる野菜だからと、彼らにご遠慮してもらいますが、彼らにとっては、私たちにこそ邪魔されていると感じるかも。

ドキドキがとまらない。

葉物野菜にはご用心。

ユソセロラン

ありがとうございます



第20回 その20

ユソセチラテ
ありがとうございます

先月から、ドリンクメニューに「チラテ」が加わりました。夏前に登場した「チケチャイ」の、7次元バージョンです（うそです）。

何度も試作をし、巨匠にお味見をしていただき、おずおずデビューしたこちらは、ベースはみなさん同じなのですが、最後の仕上げのハーブやスパイスを、お一人ずつ選ばせていただいており、毎回味が変わります。

ちょうど1年前、クリニックで「贈り合いアドバンスト」テクニックを教わった際のミコトオンが「チラテ」でした。

Bマコニとしてのこのミコトオンで呼ばれるようになるのは、わしにとってずっと先だろうなと思いつつ、チラテって超かわいいやん、スタバみたい。いつかチラテっていうドリンク作ったら、と思っていました。そのふた月後、自身がカフェをやるようになることなど1ミリも知りもしませんし、思ってもいないのに、です。

少し前に、ンヤン先生にその話をちらっとお伝えすると、「チラテの内側に、初めから達成があったんだね」とおっしゃってくださいました。

その時は、ほえー、というようなお返事しか出来なかったのですが、その「いつか作ったら」の思いの先に、おぼろげながらも、白いカップに入った、湯気が立つ柔らかな色合いの飲みものを、もくもく描いていたのを思い出します。

即興ブレンドのハーブティーは、光を観ようとするんだっ茶として、チラテは、祝福のお茶としてお出ししております。

ミコトオンゆえか、「チラテ…さん」とオーダーくださった方がいらっしゃいましたが、ふつうにお申しつけくださいませね。

続く（んか？）。

ユソセチラテ
ありがとうございます。



今年の仕上げに…シャトリましょ。

コトハを学び、ミコトを生きる

ナラユ

第18回 「響きでつながる」

ユソセナラユ
ありがとうございます

皆さん、こんにちは。ナラユです。
「コトハを学び、ミコトを生きる」の第18回です。

ナラユは、昔、よく将棋をやっていました。
将棋は、一対一で敵味方に分かれ、盤上で、自分の王将の守備を堅めながら、相手と駒を取り合い、最後に相手の王将を取った方が勝ちになります。
将棋には、王将、飛車、角行、金、銀、桂馬、香車、歩という8種類の駒があります。それぞれに個性があり、働きが異なります。
4次元的に見れば、強い駒と弱い駒があります。弱い駒を得るために強い駒を取られてしまっ
ては損であり、その逆は得です。自分が得をするような手を考えなくてはなりません。
将棋のルールを覚えて、損得が分かるようになると、自分がこの手を打つと相手はこうするだ
ろうという読みが生じます。3手先、5手先、7手先というように先を読むようになり、将棋
を流れで捉えるようになります。これは5次元的です。
この「読み」の精度が高まってくると、次第に大局観が分かるようになってきます。大局観
は、局面を全体的な視点で観て、形勢を捉え、仕掛けるタイミングを図り、次の局面を創造す
る力だと思います。大局観のレベルにおいては、損得を超えており、個々の駒に対する執着が
ありません。それは内側に確信があるからです。まさに6次元的です。
そして、さらに進むと、一手の中に全てがある、すべての駒とつながっているという感覚にな
ってきます。それは敵味方を超えており、常に欣びがあり、毎瞬間の創造があります。これは
7次元的です。
このように将棋一つとっても4次元から7次元までの階層構造を観ることができます。知識は
至るところに現れているのです。

ところで、この将棋の話は、先日、朝の口上儀礼後のトークでもしています。その時ナラユは
1つの達成を受け取りました。この話を聞いた方から「朝のお話すごくよかったです。将棋は
わかりませんが。朝の実習で感じたことが、このお話でつながりました。」というメッセー
ジをいただいたのです。将棋について全く知らない人がいることは承知の上で話をしているの
ですが、実際に、将棋を知らない人と将棋の話でつながることができて嬉しくなりました。響き
でつながるとはこういうことなのだと思います。

ユソセナラユ
ありがとうございます



今年の仕上げに…細かい掃除と大掃除

第20回 お祝いのお菓子

ユソセキリヲ ありがとうございます

この世界には、知らないことが山ほどあります。

先日食べたお菓子は、生まれて初めて知った異国のお菓子でしたが、ひと目みたとき、なんだか自分に似ている気がしました。

自分というか、「自分の真実」に似ている気がしたのです。

調べてみると、そのお菓子は、お祝いの日にふるまわれるお菓子とのことでした。

レシピを調べ、それから数日かけてそのお菓子を作る準備をしました。

準備といっても、「ギーを入れたら美味しそう」という発想から、

ギーを作ろう ⇨ 作る前に台所を片付けよう ⇨ ついでに戸棚も片づけよう ⇨ お菓子と一緒に食べる漬物を作ろう ⇨ 漬物用の野菜を干そう ⇨ 布団も干そう ⇨ 寝室を片づけよう ⇨ 漬物用の柚子を買おう ⇨ 枝葉が安いから事務所に飾るリースを作ろう ⇨ 余った枝葉を部屋に飾ろう ⇨ ギーを作るんだっ!

と、ほぼ脱線しておりましたが、結果的に整った空間の中、お菓子の下ごしらえをしていたら、心がとても静かで、まるで世界を祝福しているみたいな気持ちになりました。

それは新年を迎えるときの気持ちにも似ていて、年越しの準備で得るのは、新年という達成なのかと思ったりもしました。

自分の真実に似ている気がした、お祝いのお菓子。それを作ったことで達成は受け取れたかな?と向きあってみたところ、よくわからず。

向き合うと否定的なものが出てくるから、向き合うのはいやだなあと思ったり。

でも作る前にはなかった、あたたかくて豊かなものが、内側に存在している気もしています。

今日からは、レヨネのハの期間です。

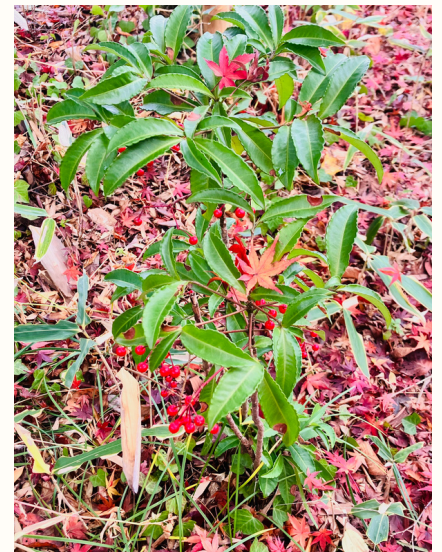
ハの期間は、メの期間で「目覚め」から現した活動を、大きく広げていく期間ですので、この「あたたかくて豊かな感じ」を広げていければと思っております。(さっそく我が家にファンヒーターがやってきて、物理的にはあたたかくなりました)

それでは、次回は約2週間後のナユアのク、満月の日にお目にかかれますよう。

本号も最後までお読みくださり、まことにありがとうございます。

2023年12月13日、レヨネのハ、新月の日に。

ユソセキリヲ ありがとうございます



最近の発見、キオマの庭の小さな南天。昨年はないのに、鳥が種を運んできたのかな。



マ〜のLINEスタンプで
指先から欣びを広げよう

♡絶賛発売中♡



[いつだって欣びがいっぱい♡マ〜スタンプ①]

https://line.me/S/sticker/24538084/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail

[いつだって欣びがいっぱい♡マ〜スタンプ②]

<https://line.me/S/sticker/24495397/?>

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/?](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail://line.me/S/sticker/24495397/?)

[lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail](https://line.me/S/sticker/24495397/?lang=ja&utm_source=gnshtickerDetail)



KIRからのお知らせ

この度、KIRからは2種類の冊子を取扱することとなりました。

『まいにちのコトハ』

コトハの知識をわかりやすく、毎日の日課としてまとめました。お子様も大人も一緒に楽しみながら学んでいただけます。K-PVT講師とK-PVTコーディネーターが共に作成しています。

700円（限定100部）



『ルートルーナカレンダー 2023-2024』

ルートルーナ暦に基づいた、手帳タイプのカレンダーです。

お一人お一人が光の円環構造を生きていただくためのものです。月の満ち欠けや24節気などを感じながら、日々の向き合いの中で感じたことや、自然知性に沿うために行うこと、その日受け取ったものなど、自由に書き込んで使ってください。

1,000円（限定50部）

ご購入は以下のQRコードか、KIRまでお電話かメールでお問い合わせください（複数購入可能です）。

<https://ws.formzu.net/dist/S722321035/>





KoToHa *Integral Research*